

# 平成 26 年度 第 1 回伊勢市環境審議会 記録概要

## 1. 開催日時

平成 26 年 7 月 8 日（火） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

## 2. 開催場所

伊勢市役所 本館 4 階 4-2 室

## 3. 出席委員（15 名）

中村 貴司（公共的団体：伊勢商工会議所）  
川端 利生（公共的団体：伊勢農業協同組合）  
杉田 英男（公共的団体：伊勢湾漁業協同組合）  
森本 幸生（公共的団体：伊勢市総連合自治会）  
竜田 和代（公共的団体：伊勢市女性団体連絡協議会）  
高橋 克彦（公共的団体：伊勢市環境会議）  
山本 実（公共的団体：小俣町商工会）  
朴 恵淑（学識者：三重大学）  
深草 正博（学識者：皇學館大学）  
坂内 正明（学識者：三重大学）  
橋本 清（学識者）  
笹岡 哲也（神宮司廳）  
打田 雅敏（三重県南勢志摩地域活性化局）  
岡本 忠佳（公募）  
天野 雅弘（公募）

## 4. 欠席委員（2 名）

船谷 哲司（公共的団体：伊勢商工会議所）  
高橋 虎彦（公共的団体：いせしま森林組合）

## 5. 審議事項

- (1) はじめに
- (2) 第 2 期伊勢市環境基本計画の策定について
- (3) アンケート調査の実施について
- (4) その他

## 6. 審議要旨

### (1) はじめに

#### ○市環境生活部長（坂本）挨拶

- ・今年度中に第2期伊勢市環境基本計画を策定していきたい。

#### ○委員変更紹介

- ・所属団体、活動状況等

#### ○会長（朴）挨拶

- ・伊勢市環境基本計画の策定は、環境審議会の仕事の中でも重い仕事の一つである。
- ・平成22年3月に伊勢市環境基本計画が策定されたが、それから5年が経過し、新たに平成27年度からの計画を作る必要がある。
- ・本日はどのようなアンケートを行うのかについて審議したい。伊勢市の環境の動向をよく理解している我々が意見を出し、よりよいアンケートにしていきたい。

### (2) 第2期伊勢市環境基本計画の策定について

#### ○第2期伊勢市環境基本計画の策定について説明（事務局）

- ・資料「第2期伊勢市環境基本計画の策定方針」をもとに、基本的考え方、策定方法、策定スケジュールを説明

#### ○質疑・意見等

##### <計画策定の基本的考え方>

- ・大きな考え方として前回は踏襲するというのは変えてはいけないものだと思う。それと、限られた会議の中で議論するには、総花的ではなく、重点を絞って議論するのがよいのではないか。
- ・現行計画策定後、東日本大震災の発生など、日本全体が大きく変化している。現行計画の考えを踏襲していくということはやぶさかではないが、ダイナミックさを加えていく必要もある。
- ・全国的に注目された昨年の式年遷宮の直後に策定される環境基本計画なので、現行計画の踏襲ではインパクトが弱いのではないか。単に続けるということではなく、伊勢市の資源を活かした計画をつくるという書き方をすればよいと思う。
- ・これまでのような消極的な環境施策から脱却する必要があり、伊勢市にはそれができる環境がある。伊勢市の環境には環境文化もあり、例えば、式年遷宮をどのように考えるによって、伊勢市だからこそできる強みとなる。
- ・絶対に欠かせないテーマがエネルギーである。地球温暖化対策の視点でみると、伊勢市では様々な取組を行っており、これらは現行計画策定時には無かった。こういった他のまちが持っていないムーブメントを前面に出して、迫力とインパクトのあるものにしていきたいと思う。
- ・伊勢市のように資源が豊かなまちではなく、特徴に乏しいまちでも、バイオマスタウン構想やアクアアクティブシティというコンセプトを打ち出しているところもある。色々なまちが環境基本計画に勝負をかけている。環境は大変だというイメージがあるが、考え方を変えれば何でもできる。これからはチャレンジ的にやっていかなければならないと思う。
- ・資源・エネルギー、環境保全、環境教育の3つは柱になると思う。

### <環境の現況の把握>

- ・環境の現況把握について、内容と方法は。  
⇒環境の現況把握については、既存資料に基づいて整理する予定である。
- ・山間地では以前と比べてシカが増えて大変な状況になっている。これは現行計画策定時の環境とは大きく変わった点である。そういった意味でも、現況をしっかりと把握する必要がある。
- ・伊勢市には山も川も海もあり、その環境がどうなっているのか、現況の把握は重要だと思う。  
⇒環境の現況把握は重要だと考えている。庁内には農林水産関係部局もあるので、連携を図り、どこまで把握できるか調整したい。また、委員の皆様も、伊勢市のどの部分について調べた方がよいというご意見があれば、ぜひいただきたい。
- ・神宮林は神宮が守ってきているが、山と人との接点、里山といわれる環境が開発や竹の侵食等に脅かされていることが課題だと思う。伊勢市の里地里山がどうなっているのか、こういったところも調査してもらいたい。
- ・大仏山ではイノシシが増加しており、芝がめくれてしまっている。猟友会も住宅地があるため狩りができず、増える一方になっている。
- ・山だけでなく、川も海も同じ状況。川を掃除したいという声はあるが、掃除と一緒に葦なども刈られてしまう。また、山や川からの影響で、アサリを放流しても一瞬でなくなってしまふ。山から海まで、環境は一体であることを念頭に置いていただきたい。

### (3) アンケート調査の実施について

#### ○アンケート調査の実施について説明（事務局）

- ・資料「アンケート調査の実施について」、「アンケート調査票案（市民用）」「アンケート調査票案（事業者用）」をもとに、アンケートの調査方法、設問案を説明

#### ○質疑・意見等

### <調査対象の抽出>

- ・対象の抽出方法について、前回は 15 歳以上の伊勢市在住者であったかと思うが、今回年齢は関係ないか。また、前回の回収率は 35%程度であったが、回収率を高める工夫が何かあれば教えていただきたい。  
⇒今回の調査も前回同様 15 歳以上であるので、冒頭に記載させていただく。回収率については、調査の実施について市 HP 等で事前周知を図る予定である。
- ・大学生については、もう少し多くの数を取れるとよいと思う。

### <回収率の向上>

- ・回収率の話題があったが、無作為に送るのではなく、町内会を通じて配布する、事業者であれば会議所等を通じて行うという方法はあるか。  
⇒手法の一つとしてはあると思う。ただし、作作的になるということと、配布いただく方への負担が生じるので、それでもよければ実施することもありえる。
- ・最初に簡単な必要な項目を設定し、その次に踏み込んだ設問を設定するようにしたいと思う。基本計画の次には行動計画をつくらないといけないので、それに繋がるものにしたい。

#### <調査協力の依頼文>

- ・市として頑張っており取り組むので、市民の皆さんの意見を聞かせてほしいという熱い想いを依頼文等にも書いてもよいと思う。
- ・アンケートの依頼文には、「世の中が大きく変わる中での計画改定であり、非常に重要な調査であるためご協力よろしくお願いします」といった内容に加え、簡単な設問から踏み込んだ設問を設けるようにしていただきたい。

#### <伊勢市の取組紹介>

- ・市民、事業者の両方に載っているが、「おかげさま Action!」の記事が素晴らしく、回答を誘導してしまう恐れもあるのではないかと。式年遷宮やこういった地球温暖化対策の取組などを、別紙にとりまとめて調査票と一緒に配布することも考えられる。

#### <調査票（市民用）>

- ・市民アンケートの問1は、選択肢の数が多いので、選択肢をグループ分けした方が回答しやすいと思う。
- ・問2には、各項目について5段階の重要度評価がある。このグループ分けされている大項目について、別途重要度を問う設問を設けてはどうか。そうすると、市民がどういったテーマについて重要視しているかが分かると思う。
- ・問5の市民活動への取組状況について、これまでの経験は過去のことだと思うが、現在の取組状況を聞く必要はないか。また、これまで取り組んでいたが、やめてしまった人も思う。それと、問6の活動名称は必要でしょうか。これを記入すると、誰であるか特定されてしまうのではないかと。  
⇒現在取り組んでいる人や、過去に取り組んでいたがやめてしまった人など、回答しづらいところがあるので表現は工夫する。団体名称については、差し支えない範囲でお聞きしたい。この設問は、活動のPRをされたい方もいるのではないかと考え、加えたものである。
- ・問1の「飲料水がおいしいまち」とはどのようなまちをイメージしているのか。また、問3の「シ(エコカーの購入・レンタル)」は、アンケートでなくても把握できると思う。
- ・環境教育という表現は古いかもしれない。11月に世界会議もあるので、ESDとした方がよいと思うが、急に出てくると分からないかもしれない。
- ・「環境教育(ESD)」として、ESDの説明を加えてはどうか。伊勢市も世界的な潮流に乗っていることをアピールした方がよい。

#### <調査票（事業者用）>

- ・事業者アンケートの問2には、地域との連携について触れられていないが、重要なことなので項目として挙げていただきたい。
- ・事業者アンケートについて、事業者によっては取組を自慢したいというところもあると思う。例えば、○をつけた後に「貴社が取り組んでいる活動で、特徴的なものがあればお書きください」という設問を設けてはどうか。
- ・M-EMSやISOに関する設問や選択肢がないので、加えた方がよいのでは。

- ・事業所の所在地区について、市民と同様に 12 中学校区にしてはどうか。現状では、旧伊勢市に集中してしまうと思う。

#### <調査結果の分析>

- ・選択肢のレベルが 5 段階や 4 段階のものがあるが、集計・分析時に苦勞することもあるので、もう一度精査していただきたい。
- ・アンケートは市民の意識を知るということではよいと思う。その先として、例えば、生物多様性が重要だと回答する人は少ないと思うが、それを重要でないと捉えるか、市民への啓蒙が足りないか、市としてはどのようにお考えか。  
⇒市民の意識が低いから何もしないということはない。伊勢市の環境は、生物多様性の面ではまだまだ弱いと認識している。特定外来種等の問題もあるので、今後も取り組んでいきたいと考えている。

#### <その他>

- ・東日本大震災の後、国土強靱化法という法律ができているが、こういった内容についてアンケートに何か反映されているか。  
⇒一般市民へのアンケートとなるので、環境面で伊勢市がどの方向を目指していけばよいか、普段の生活の中でどのような環境配慮を行っているのかなどの設問を予定している。
- ・アンケートを行うと、理解はしているが行動できないという課題が出てくる。なぜ行動につながらないか、把握することは難しいと思うが、頑張ってください。また、市の取組の後押しとしてアンケート結果を利用するというを考えてもよいと思う。
- ・我々が色々と知恵を出し、行政を後押しすることも必要である。例えば、作業部会をつくって検討することも視野に入れてもよいと思う。また、よく言えば、我々の意見を取り入れてもらえる環境にある。今日の意見を踏まえて修正していただき、必要に応じて一度有志が集まり、検討する可能性もある。  
⇒色々なご意見をいただいた。市としてどこに力を入れていくかを前面に出せればとは思いますが、個人的には全てに注力していかなければならないと感じている。個人的な考えや、弱点を克服するという視点はありますが、行政としてはやはり全般的に捉えていくべきだと考えている。アンケートを通じて、市民の目線からどこに注力すべきかを聞きだせるとよいと思っている。

### (4) その他

#### <みえ森と緑の県民税>

- ・今年から森林税が導入されているが、松阪市や多気町ではバイオマスのお話が出ており、建築材として利用できるような木材もバイオマスに回っているということも聞く。これは、国や県の考えている施策、例えば、里山資本主義で木材を建築にも積極的に使っていこうという流れの中で、異なる方向に進んでしまっているのではないか。
- ・森林所有者が高齢化してきており、維持管理にお金がかかる、誰かが支えないと森林は衰退してってしまうということが発端だと思う。
- ・土砂崩れ等を防ぐために、山に木を植えるということではないのか。

⇒地球温暖化対策にも繋がるが、まずは防災面での導入と聞いている。

⇒県が基金として運用し、市町村の事業の中で、災害に強い森林づくり、県民全体で森林を支える社会づくりに使っていくとのことである。

- ・山から海まで、どこでも利用できると聞いている。伊勢市の森林は神宮林が大半を占めていると思うが、それ以外にも様々な森があるので、こういったものもタッチして施策を打っていく、計画に盛り込んでいくということも重要だと思う。

－以 上－